

地 理 歴 史

1 研究テーマ

(1) 研究テーマ

「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実

(2) 研究のねらい

本研究では、「単元の指導と評価の計画」における主題や問いを工夫し、学習評価の改善を図ることをねらいとした。

2 実践事例

【事例1】

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：「地理総合」

イ 単元名：歴史的背景と人々の生活～植民地支配の影響が残るアフリカの産業～(生活文化の多様性と国際理解)

ウ 単元の目標：

- (ア) 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解する。
- (イ) 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、その生活文化が見られる場所の特徴や私たちの生活とのかかわりを理解する。
- (ウ) 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件とのかかわりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- (エ) 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することを理解している。 ・ 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、その生活文化が見られる場所の特徴や私たちの生活とのかかわりを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件とのかかわりなどに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的背景が生活文化や産業に与える影響について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<p>【生活文化に残る旧宗主国の影響】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植民地支配の歴史は、人々の生活文化にどのような影響を与えているか。 		●	●	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 植民地支配の歴史や旧宗主国の影響が残っていることを考察させる。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元の学習内容である南米の混血もサハラ以南アフリカの人々が奴隷として送られたことが人々の生活の背景にあることに

					<p>ついて考察できているか、ワークシートの記述から見取り、(思)を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考察した背景が現代につながっていることに気づき、地域の課題を追究、解決しようとしているか、ワークシートの記述から見取り、(態)を評価する。
2	2・3 本時	<p>【植民地支配の影響が残るアフリカの産業】 (本時：3時間目／4時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植民地支配の歴史は、現在のアフリカの産業にどのような影響を与えているか。 	●	○	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の金とカカオ豆の価格高騰について考察させ、グループ内の共有を基に理解を促す。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードやモノカルチャー経済の現状について理解できているか、ワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 ・フェアトレードの取組状況や進まない現状について、「新しい産業の創出」と「気候・雇用・インフラ」という視点から多面的・多角的に考察しているか、ワークシートの記述及び提出物から見取り、評価基準に基づいて(思)を評価する。
3	4	<p>【人々の生活の変化と経済成長への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活はどのように変わり、経済成長に向けてどのような取り組みが行われているか。 	○	○	<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長に向けた取り組みとしてICTが成長戦略の要であることについて、理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 ・発展途上国の開発という地球的課題について問題意識を高め、次の学習へのつながりを見いだそうとしているかをワークシートの記述から見取り、(態)を評価する。

カ 授業実践例 (3時間目／4時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
<p>1 導入(5分) ◇前時までの内容、本時の問いの確認</p> <p>MQ：「なぜ、ガーナはモノカルチャー経済から脱却できないのか？」</p>	
<p>2 展開(40分) ◇モノカルチャー経済、フェアトレードについての学習</p> <p>SQ1：「フェアトレードの現状とは？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次産品、モノカルチャー経済、フェアトレードとは何かについて学ぶ。 ・フェアトレード製品の国別年間購入額のグラフを読み取り、日本はヨーロッパ各国と比べて、フェアトレードが進んでいない状況を確認する。 ・フェアトレードが進まないのであれば、モノカルチャー経済を脱却させるための支援にシフトするのも手段の一つということをイメージさせる。 	<p>●知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードのデメリットや日本でフェアトレードが進んでいない現状について、理解しているか。

◇モノカルチャー経済からの脱却についての考察	(ワークシート)
SQ2: 「あなたが食品メーカーの社長であれば、モノカルチャー経済から脱却させるためにどのような支援ができるか？」	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナがモノカルチャー経済から脱却するために、日本企業はどのような支援ができるかについて考察する。 ・生徒の多面的・多角的な考察を促すために、モノカルチャー経済から脱却するための手段として、「新しい産業の創出」という視点を提示する。 ・また、モノカルチャー経済から脱却できない理由について、地理的環境の影響を踏まえた「気候・雇用・インフラ」の視点を提示する。 ・考察した内容を、周囲と共有する。 	<p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の企業ができることについて、多面的・多角的に考察しているか。 <p>(ワークシート)</p>
<p>3 まとめ(5分)</p> <p>◇MQに対する回答のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記述した考察をまとめて、Google Classroomで提出する。 	<p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガーナがモノカルチャー経済から脱却できていない理由を、「新しい産業の創出」と「気候・雇用・インフラ」という視点から多面的・多角的に考察しているか。 <p>(提出物)</p>

研究実施校：神奈川県立秦野曾屋高等学校(全日制)

実施日：令和7年11月7日(金)

授業担当者：川畑 拓哉 教諭

参考文献

- ・使用教科書 帝国書院『高等学校 新地理総合』
- ・地図帳 帝国書院『標準高等地図』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説地理歴史編』
- ・独立行政法人国民生活センター「国民生活」(ウェブ版) <https://www.kokusen.go.jp/wko/>(2026年2月17日取得)
- ・フェアトレード ジャパン <https://www.fairtrade.net/jp-jp.html>(2026年2月17日取得)
- ・明治ホールディングス「メイジ・カカオ・サポート」
<https://www.meiji.com/sustainability/cocoa/>(2026年2月17日取得)
- ・株式会社明治「比べてみよう世界の食と文化」
<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/worldculture/ghana/>(2026年2月17日取得)
- ・株式会社トラストリッジ エレメントブランド <https://elemenist.com/>(2026年2月17日取得)

(2) 「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実のポイント

ア 「地理総合」の授業づくりについて

研究テーマ「『指導と評価の一体化』の実現に向けた学習評価の充実」の研究にあたって、「事例1」では地理総合を取り扱った。

「学習指導要領」では、「B 国際理解と国際協力(1)生活文化の多様性と国際理解」において「世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現すること」と記載がある。これを参考に、アフリカのガーナを学習内容として「なぜ、ガーナはモノカルチャー経済から脱却できないのか？」という主題を設定した上で、ガーナの地理的環境を踏まえ、「気候・雇用・インフラ」の視点から多面的・多角的に考察する授業を構成した。

イ 本時の授業について

授業の展開としては、設定した「なぜ、ガーナはモノカルチャー経済から脱却できないのか？」(MQ＝メインクエスト)という主題を、そのまま本時のMQとして用いた。MQは、授業冒頭に生徒と共有することで、生徒が見通しを持って授業に取り組めるように促すとともに、生徒が自らの活動を振り返り次回の授業にいかすことを目的として設定した。このMQに対して考察することを、本時の授業のゴールとした。さらに、スモールステップとして「フェアトレードの現状とは？」(SQ1＝サブクエスト1)と「あなたが食品メーカーの社長であれば、モノカルチャー経済から脱却させるためにどのような支援ができるか？」(SQ2)を設けることで、生徒が学習した知識をいかにしながらMQに対する考察ができるよう工夫した。授業で使用したワークシートの一部を、図1に示す。

1学年 地理総合 授業プリント ガーナ []組 []番 氏名[]																
<p>目標・POINT</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本企業が行っているフェアトレードに関係する取り組みを理解する。 モノカルチャー経済から脱却するための支援が乏しい理由を多面的・多角的に考察する。 																
<p>(ii) 私たちにできること</p> <p>・ガーナでは、自然から採取された状態で加工されていない①[]の輸出がさかん。 → 一次産品の輸出でその国の経済が成り立っている状態を②[]という。 ※一次産品は、国際価格の変動が激しく天候にも左右されやすい＝収入が安定しない。</p> <p>・カカオ農家が安定した生活を送れるために私たちができること… 商品を買いたくことがないよう、農家の方が安定した収入を得られるように正当な価格で取引を行い、生産国の貧困解消や経済的自立を支援しなければならない… ③[]</p>																
<p>◆現在、フェアトレードの対象となっている主な製品</p> <p>コーヒー 紅茶 カカオ製品 はちみつ 果物 加工果物 ナッツ ワイン 油脂果実 穀類 スポーツボール 切花 コットン 金 など</p>																
<p>◆フェアトレードのメリット</p> <table border="1"> <tr> <td>生産者にとってのメリット</td> <td>生活が安定し、貧困から抜け出せる 子どもが労働することなく教育を受けられる 所得を増やす機会が得られる</td> </tr> <tr> <td>消費者にとってのメリット</td> <td>安全・安心な商品が手に入る こだわりの品・質の高い商品が手に入る</td> </tr> <tr> <td>企業にとってのメリット</td> <td>企業のイメージアップにつながる</td> </tr> <tr> <td>社会や環境面からのメリット</td> <td>社会や環境が持続可能になる 発展途上国が経済成長できる</td> </tr> </table>		生産者にとってのメリット	生活が安定し、貧困から抜け出せる 子どもが労働することなく教育を受けられる 所得を増やす機会が得られる	消費者にとってのメリット	安全・安心な商品が手に入る こだわりの品・質の高い商品が手に入る	企業にとってのメリット	企業のイメージアップにつながる	社会や環境面からのメリット	社会や環境が持続可能になる 発展途上国が経済成長できる							
生産者にとってのメリット	生活が安定し、貧困から抜け出せる 子どもが労働することなく教育を受けられる 所得を増やす機会が得られる															
消費者にとってのメリット	安全・安心な商品が手に入る こだわりの品・質の高い商品が手に入る															
企業にとってのメリット	企業のイメージアップにつながる															
社会や環境面からのメリット	社会や環境が持続可能になる 発展途上国が経済成長できる															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>フェアトレード</th> <th>2012年</th> <th>2015年</th> <th>2020年</th> <th>2022年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知名度</td> <td>50.3%</td> <td>54.2%</td> <td>54.3%</td> <td>53.9%</td> </tr> <tr> <td>認知率</td> <td>25.7%</td> <td>29.3%</td> <td>34.2%</td> <td>39.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>国内のフェアトレードの知名度と認知率の推移/国民生活センター2023.10の資料より</p>		フェアトレード	2012年	2015年	2020年	2022年	知名度	50.3%	54.2%	54.3%	53.9%	認知率	25.7%	29.3%	34.2%	39.3%
フェアトレード	2012年	2015年	2020年	2022年												
知名度	50.3%	54.2%	54.3%	53.9%												
認知率	25.7%	29.3%	34.2%	39.3%												
<p>知名度 … 企業・ブランド・商品・人名などの名前が世に知れ渡っている度合い。 認知度 … 名前だけでなく、製品や事業内容まで広く知られ、ある程度中身について理解されている状態のこと。</p>																
<p>◆ある食品メーカーの取り組み(HPより引用/一部改変) ●●●は会社名が入ります。</p> <p>●●●のチョコレート作りは、カカオ栽培から始まります。●●●は世界中のカカオ産地とつながっているから、いろんな国のいろんな事情を知っています。 たとえば、木が古くなっていることや、苗木や肥料が手に入りにくい、育てるのが難しくなっているなど、カカオを作っている人たちにとって、困ってしまう理由がたくさんあります。 そこで、「カカオ・サポート」という活動を始めました。カカオ農家に向けて、カカオ豆に関する勉強会を開催したり、苗木や肥料を配付しています。また、カカオを作っている人たちの村に井戸を掘ったり、学校にイスや机などを届ける活動をしています。なお、この活動の維持・推進のために、カカオ豆調達時にプレミアム価格で購入しています。</p> <p>(a) 上記の取り組みを読むと、カカオ豆を安定的に生産するための支援(プレミアム価格で購入)を行い、また、フェアトレードも行っているが、モノカルチャー経済から脱却するような支援はしていない。食品メーカーがガーナをモノカルチャー経済から脱却させるためにできることは何か。(4分)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>(b) ほかの人の意見や考えを聞いて、どんなことを考えたか、感じたか。(3分)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>(c) 現状、上記の食品メーカーはガーナのカカオ栽培の支援にとどまっている。現地をモノカルチャー経済から脱却させることができれば、企業イメージやブランド力の向上にもつながるが、その動きはない。現地生産を困難にしている理由を「気候」「雇用」「インフラ」というワードから考察しなさい。(4分) ※この問いは、今回の授業の目標に直結しています。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>(d) ほかの人の意見や考えを聞いて、どんなことを考えたか、感じたか。(3分)</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>(e) ガーナの貧困解消や経済的自立を支援し、ガーナのよりよい社会の実現するために私たちや日本企業はどのようなことができるか。(a)～(d)で書き出した内容をベースに考察しなさい。 ※提出先 … 地理総合のclassroomの課題に配信します。各自、Googleドキュメントを使用して提出してください、なお各自のchromebookやPCを使用して作成すること。</p>																

図1 ワークシート(地理総合)

このワークシートは、総合教育センターウェブページにてダウンロードできます。

ウ 生徒の考察について

本時の授業では、MQに対する解答をGoogle Classroomで提出させた。提出物は、観点「思考・判断・表現」の「記録に残す評価」として見取り、評価基準に基づいて評価を付けた。評価基準を作成する上では、モノカルチャー経済から脱却するための手段としての「新しい産業の創出」という視点と、モノカルチャー経済から脱却できない理由としての地理的環境の影響を踏まえた「気候・雇用・インフラ」の視点の両者が盛り込まれているかを大きなポイントとした。以下、生徒の記述例を挙げる。

(7) A評価とした生徒の記述例(原文ママ)

モノカルチャー経済から脱却するためには「新しい産業の創出」が重要とのことなので、まずは産業の要となる電力供給や輸送面の整備が先だと思う。日本はそういった技術を持っているから、まずはインフラの整備の面でモノカルチャー経済から脱却させるための支援ができると思う。インフラが整備された後に、日本だけでなく先進国が集まって「何ができるか」「ガーナで採れるもので、先進国が作ってもらいたいものは何か」などを話し合っ、その技術を先進国が教えればいいと思う。そうすれば、日本や先進国の雇用も守られると思う。日本も頑張っ、旧宗主国も日本以上に頑張っ、ほしいと思う。

「カカオ豆からチョコレートをつくるための製造方法」だけでなく、モノカルチャー経済から脱却できない本質に触れている生徒はわずかであった。この生徒は、「雇用」についてだけでなく、経済的自立の前段階としてインフラ整備が重要であることにも着目しているため、A評価とした。また、日本だけでなく世界的な視野で考察することも産業の幅を広げるために重要であると述べている点も評価を高く付けた一因であり、製造方法を伝える前に他にすべきことがあると多面的・多角的な考察がなされていた。

(4) B評価とした生徒の記述例(原文ママ)

ガーナでは一次産品のカカオを使って経済を回していたけど、それだとカカオが不作のときに収入が安定しない。そこでカカオをひと手間加えてチョコレートを作っ、二次産品として輸出すれば価格が上がるけど、ガーナにはそのような技術を持っていない。そこで日本企業が技術をガーナに取り入れてやり方を教える。

多くの生徒は、カカオ豆からチョコレートをつくる部分に着目し、製造技術を伝えることが大切と考察していた。これは、ワークシートの「食品メーカーの取り組み」を参考にして解答をまとめたからだと推察される。しかし、「新しい産業の創出」についての記述は見られず「雇用」についてのみ言及しているため、B評価とした。

(7) C評価とした生徒の記述例(原文ママ)

カカオ豆から美味しいチョコができるということはまだ知らない農家生産者にチョコのすばらしさを伝えること。チョコで人の喜び、幸せを得ているということを知ることにより一層捲るんじゃないのかと思います。

この生徒は、地理総合で学習した内容や資料等に基づいて考察したものではなく、生徒の主観のみで解答をしているため、C評価とした。授業内で、「カカオ農家はカカオ豆から何ができるかを知らないまま、カカオ豆の栽培をしている」という話を紹介した際に、その印象が強く残ったため、このような解答になったと推察される。この生徒に対しては、提出物の返却後、改めて地理的な見方をレクチャーするだけでなく、どういった点に着目すればモノカルチャー経済から脱却につながるかを考えさせて、レポートを再提出させた。

E 成果と課題

公開研究授業後の研究協議では、以下のとおり、成果として二点、課題として二点が挙げられた。成果の一点目は、「学習内容と主題の設定」についてである。チョコレートとガーナを学習内容としたことで、距離的に遠く離れている地域が私たちの生活と密接に関係していることを生徒に実感させることができた。授業では、実際のチョコレート製品やメーカーとフェアトレード製品を取り上げることで、設定した「なぜ、ガーナはモノカルチャー経済から脱却できないのか？」という主題について、課題解決の視点から生徒に考察させることができた。また、今回の主題は研究テーマのねらいを達成する上でも有効であった。今回の主題に解答するためには、前単元までに学習した気候、地形、経済、文化などの視点が必要であり、身に付けた資質・能力を生徒自身が自ずと意識することができたことは成果と言える。成果の二点目は、「授業内での重層的な問いの設定」についてである。MQ

につながる形で多面的・多角的な視点で考えることのできるSQの提示と、SQに対して既習の知識・技能を活用させて取り組むワークによって、生徒は授業に取り組みやすくなったことが、授業中の取組状況や提出物からうかがえた。

一方、課題の一点目は、「単元の目標と評価規準の共有」についてである。本時においては、単元の目標とつながるMQを提示したものの、単元の冒頭から評価規準を生徒と共有することがかなわなかった。単元全体を一つの学びとして生徒に意識させることは、今後の課題である。課題の二点目は、「生徒の実態や学習内容に合わせた学習形態の設定」である。本時の学習活動をグループでは行いつらいのではないかと感じていたため、研究授業では個人ワークをメインとして、個人での考察後に「他人の意見や考えを聞いて、どう感じたか」という活動を取り入れた。しかしながら、実際には個人で積極的に考えられていない生徒もおり、生徒の実態や学習内容に応じた学習形態を設定する必要を改めて感じた。そのためには、生徒の学習状況をよく見取ることと活動の意図やねらいを生徒と共有することが大切である。また、学習展開によっては、生徒間に学習内容の理解や課題の取り組みに差が出ることも想定される。授業のステップに応じて個人・ペア・グループ活動などの学習活動を適切に設定し、次のステップに向かう前にICT機器を活用して生徒間の学びの共有の時間を適宜設けながら、授業を進めていくことの大切さを感じた。この点は、「指導と評価の一体化」の視点からも重要なことである。生徒の学習状況を「指導に生かす評価」として見取りながら、次の授業や単元の構成の改善を図っていきたい。

【事例2】

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：「歴史総合」

イ 単元名：第一次世界大戦と大衆社会

ウ 単元の目標：

- (ア) 第一次世界大戦の展開や戦争終結後の国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。
- (イ) 大衆の政治参加や、大正デモクラシーと政党政治の動向などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。
- (ウ) 第一次世界大戦の性格と惨禍、大戦後の国際協調体制の特徴などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- (エ) 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- (オ) 国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究する態度を養う。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の展開や戦争終結後の国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加や、大正デモクラシーと政党政治の動向などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の性格と惨禍、大戦後の国際協調体制の特徴などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化と私たちについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

オ 単元の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント	
1	1	単元を貫く問い：「なぜ、20世紀前半の世界において大衆の影響力が拡大したのか？」					

		<p>【第一次世界大戦と総力戦体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦勃発の経緯や総力戦体制について理解する。 	●		<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義に基づく世界情勢を踏まえて、第一次世界大戦勃発の経緯について理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 	
	2	<p>【第一次世界大戦と総力戦体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦がなぜ世界全体を巻き込む戦争になったかを、諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	○	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦がなぜ世界を巻き込む戦争になったかについて、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦がなぜ世界を巻き込む戦争になったかについて、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述及び提出物から見取り、(思)と(態)を評価する。 	
	3	<p>【ロシア革命とソ連の成立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命とソ連成立の経緯について理解する。 	●		<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命とソ連成立の経緯について、両者のつながりに重きを置いて理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 	
	2	4	<p>【ロシア革命とソ連の成立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会主義に基づく一党独裁がなぜ成立できたかを、諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	●	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命の経緯と社会主義との関係について、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命の経緯と社会主義との関係について、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述から見取り、(思)と(態)を評価する。
	5	<p>【米騒動と大正デモクラシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と第一次世界大戦との関係性や米騒動など民衆の動向について理解する。 	●		<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が日本にもたらした影響について、大衆との関係という視点から理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 	
	3	6	<p>【米騒動と大正デモクラシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正デモクラシーと総称される思想・運動と政府の関係性について、諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	●	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府と普通選挙を求める民衆の関係について、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府と普通選挙を求める民衆の関係について、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述から見取り、(思)と(態)を評価する。
4	7	<p>【第一次世界大戦の終結と国際連盟の設立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦終結から国際連盟設立に至る経緯について理解する。 	●		<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制・ワシントン体制の成立の経緯について、アメリカ合衆国の存在に着目して理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 	

	8	<p>【第一次世界大戦の終結と国際連盟の設立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制やワシントン体制が抱えた矛盾について、諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	○	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後の国際協調体制が抱えた矛盾について、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後の国際協調体制が抱えた矛盾について、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述から見取り、(思)と(態)を評価する。
	9	<p>【普通選挙法制定と日本の大衆】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会運動の普通選挙法制定に至る経緯について理解する。 ・普通選挙法と治安維持法がセットで制定された政府の思惑を考察する。 	●	●	<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会運動と普通選挙法制定に至る経緯について理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。 ・普通選挙法と治安維持法をセットで制定した政府の思惑について、大衆の実態を手掛かりとして考察しているかをワークシートの記述から見取り、(思)を評価する。
5	10 本時	<p>【普通選挙法制定と日本の大衆】 (本時：10時間目／13時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1920年代前半の日本社会や大衆が抱えていた問題点を、普通選挙法や治安維持法制定の経緯や、関東大震災に関する諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	○	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1920年代前半の日本社会や大衆が抱える課題について、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1920年代前半の日本社会や大衆が抱える課題について、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述及び提出物から見取り、(思)と(態)を評価する。
	11	<p>【第一次世界大戦後の欧米諸国】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制下の国際関係や経済・貿易の仕組みを理解する。 	●		<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦間期のヨーロッパとアメリカ合衆国の関係について理解しているかをワークシートの記述から見取り、(知)を評価する。
6	12	<p>【第一次世界大戦後の欧米諸国】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦後にアメリカ合衆国が繁栄を迎えた理由及びアメリカ社会と大衆の特徴を、諸資料を踏まえて考察し、表現する。 	●	○	<p>[指導上のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦間期のアメリカ社会と大衆の特徴について、諸資料に基づいて考察するよう指導する。 <p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦間期のアメリカ社会と大衆の特徴について、諸資料に基づいて考察、追究しているかをワークシートの記述及び提出物から見取り、(思)と(態)を評価する。
7	13	<p>【単元のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元で扱った各時のMQに対する解答を参考に、時代の構造についてマインドマップを作成する。 ・単元を貫く問いについて、作成したマインドマップや単元で扱ったMQを基に考察し、ワークシートに表現する。 		○	<p>[評価のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習をつなげながら時代の構造について考察しているか、マインドマップの作成状況から見取り、(思)を評価する。 ・単元での学習内容を基に単元を貫く問いについて追究しているか、ワークシートの記述から見取り、(態)を評価する。

※「知」「思」については、単元学習後に行われる定期試験においても、記録に残す評価として見取る。

カ 授業実践例 (10時間目/13時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点 (評価方法)
1 導入(5分) ・本時の問いの確認を行う。	
MQ：「普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか？」	
・仮説(自分の予想)の共有をする。 ・根拠に基づいて仮説を立てる意識付けを行う。	
2 展開(40分)	
SQ2：「普通選挙導入時期の日本の大衆にはどのような特徴がみられるか？(関東大震災を例に)」	
・配付のワークシート【資料編】と前時で取り組んだSQ1に対する解答を基に、個人→グループ→全体の順で考察と共有を行う。 ・関東大震災の混乱や朝鮮人虐殺に関する事例から窺える日本社会の特徴を考察する。 ・資料ワークシートのヒントの問いに取り組んだ後、SQ2に取り組む。	●思考・判断・表現 ・各資料を基に、問いに対する考察を行っているか。(ワークシート) ・根拠に基づいて、自分の考えを表現しているか。(ワークシート)
4 まとめ(15分)	
MQ：「普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか？」	
・ワークシートに示した複数の視点を組み合わせてMQに取り組み、Google Classroomで提出する。 ・次回以降、単元のまとめに入ることを伝える。	○主体的に学習に取り組む態度 ・複数の視点を組み合わせながら、主体的に追究しているか。(提出物)

研究実施校：神奈川県立百合丘高等学校(全日制)

実施日：令和7年11月6日(木)

授業担当者：氣田 朋樹 教諭

参考文献

- ・使用教科書 実教出版『歴史総合』
- ・副教材 第一学習社『ダイアログ歴史総合』
- ・浜島書店『新詳 日本史』
- ・東京法令出版『新編 史料日本史』
- ・成田龍一 岩波書店『大正デモクラシー シリーズ日本近現代史④』
- ・藤野裕子 中央公論新社『民衆暴力—揆・暴動・虐殺の日本近代』
- ・安田敏朗 名古屋大学大学院文学研究科附属「アジアの中の日本文化」研究センター
 「流言というメディア——関東大震災時朝鮮人虐殺と「15円50銭」をめぐる」
 『超域的日本文化研究』

(2) 「指導と評価の一体化」の実現に向けた学習評価の充実のポイント

ア 「歴史総合」の授業づくりについて

「事例2」では、「歴史総合」における、大項目「C国際秩序の変化や大衆と私たち」内の中項目「(2) 第一次世界大戦と大衆社会」を取り扱った。第一次世界大戦の展開や第一次世界大戦前後の社会の動向などを学習する項目であり、全13時間の単元を構成した。

「単元と評価の計画」を作成するにあたり、次の展開を考えた。まず、単元の冒頭で「単元を貫く問い」を提示し、その後複数回の授業の中で「単元を貫く問い」の解決に必要な素材となる本時の問

い(MQ)の解決を図る。これに加え、各授業で扱った内容につなげる形で「単元を貫く問いに対する仮説」の蓄積を行う。単元の最後には、蓄積したMQに対する解答と「単元を貫く問いに対する仮説」を踏まえて、「単元を貫く問い」の解決に向かう。

イ 本時の授業について

本実践における「単元を貫く問い」は、「なぜ、20世紀前半の世界において大衆の影響力が拡大したのか?」と設定した。また、本時のMQは「普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか?」とした。

「ワークシート(図2)」は、2時間で1枚を完成させる構成としている。9時間目では、社会運動の高まりとそれに対する政府の動きや普通選挙法、治安維持法を学習した。本時にあたる10時間目では、関東大震災における大衆の特徴について考察し、2時間分の学習を踏まえた上でMQの解決を図った。考察にあたっては、「ワークシート【資料編】(図3)」における資料のキーワードを読み取り、読み取ったキーワードを複数組み合わせながら記述することを促した。

ウ 「指導と評価の一体化」について

本時においては、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の2観点を評価した。生徒が本時のMQに対する解答を考察するにあたっては、授業者は授業内で取り扱った複数の視点を組み合わせることと、そこから浮かび上がる大衆の問題点に着目することを促した。これは、「視点Aと視点Bを組み合わせ、問題点Cを新たに導き出す」という思考のプロセスをたどることになる。評価にあたっては、この「新たに導き出す問題点C」を記入できているかという点を中心に見取ることとした。具体的には、「思考・判断・表現」は、視点Aと視点Bを組み合わせ思考しているか否かについて、「多面的・多角的に考察し表現する」という点から見取った。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、「新たに導き出す問題点C」を記入できているか否かについて、「大衆が抱える課題を主体的に追究しようとしている」という点から見取った。

なお、普段の授業から、生徒によるMQの解答に対して評価基準を設けながらフィードバックを行うことを意識しており、本時においても次回の授業でフィードバックを行った。どのような視点を組み合わせればよかったか、どのような視点で考えればよかったかというワンポイントアドバイスを通じて、生徒の学習の充実を目指している。

歴史総合-第3期②-なぜ20世紀前半の世界において大衆の影響力が拡大したのか?~		組 番 名 前															
○普通選挙と日本の“大衆”(教科書 p.112~113)																	
MQ 普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか? <MQの仮説をたてよう>	SQ2: 普通選挙導入時期の日本の大衆にはどのような特徴がみられるか(関東大震災を例に)?(資料 C・D・E・F) Pt①:資料 C ヒント→() Pt②:資料 D ヒント→() Pt③:資料 E ヒント①→() Pt④:資料 E ヒント②→()																
SQ1: 社会運動が高まる中で、なぜ政府は普通選挙法と治安維持法を同時期に制定したのか? ☆知識①:社会運動の広がりの Q:社会運動とは?→(社会状況の改善や問題を解決するための集団での取り組み)	→SQ2:(考えられることをできるだけ多く書き出してみよう)																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>おもな動き</th> <th>内容・詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①1922(日本労働組合同盟)の結成</td> <td>労働組合の全国組織。労働者の待遇改善闘争を強力かつ全国的に支援。</td> </tr> <tr> <td>②1922(日本農民組合)の結成</td> <td>小作人組合の全国組織。小作料の減免要求を全国的に支援。</td> </tr> <tr> <td>③1911『青鞥』の創刊</td> <td>(平塚らいてう)らが発行。女性解放運動を誌面で展開。</td> </tr> <tr> <td>④1920(新婦人協会)の結成</td> <td>(市川房枝)・平塚らが結成。男女機会均等、女性政治参加を要求</td> </tr> <tr> <td>⑤1922(全国水平社)の結成</td> <td>被差別地域の人々に対する差別撤廃を訴える。</td> </tr> <tr> <td>⑥1922(日本共産党)の結成</td> <td>(社会主義)の実現を目指す。コミンテルンの日本支部。</td> </tr> </tbody> </table>	おもな動き	内容・詳細	①1922(日本労働組合同盟)の結成	労働組合の全国組織。労働者の待遇改善闘争を強力かつ全国的に支援。	②1922(日本農民組合)の結成	小作人組合の全国組織。小作料の減免要求を全国的に支援。	③1911『青鞥』の創刊	(平塚らいてう)らが発行。女性解放運動を誌面で展開。	④1920(新婦人協会)の結成	(市川房枝)・平塚らが結成。男女機会均等、女性政治参加を要求	⑤1922(全国水平社)の結成	被差別地域の人々に対する差別撤廃を訴える。	⑥1922(日本共産党)の結成	(社会主義)の実現を目指す。コミンテルンの日本支部。	<Memo>		
おもな動き	内容・詳細																
①1922(日本労働組合同盟)の結成	労働組合の全国組織。労働者の待遇改善闘争を強力かつ全国的に支援。																
②1922(日本農民組合)の結成	小作人組合の全国組織。小作料の減免要求を全国的に支援。																
③1911『青鞥』の創刊	(平塚らいてう)らが発行。女性解放運動を誌面で展開。																
④1920(新婦人協会)の結成	(市川房枝)・平塚らが結成。男女機会均等、女性政治参加を要求																
⑤1922(全国水平社)の結成	被差別地域の人々に対する差別撤廃を訴える。																
⑥1922(日本共産党)の結成	(社会主義)の実現を目指す。コミンテルンの日本支部。																
☆知識②:2つの新法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称と時期</th> <th>(普通選挙法)(1925.5)</th> <th>(治安維持法)(1925.4)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>おもな内容</td> <td> ・(10 納税資格)の撤廃 ・25歳以上の(11 男性)に選挙権 →朝鮮・台湾出身者にも選挙権(内地在住のみ) ・女性の選挙権はなし </td> <td> <禁止事項> ・団体の変革と私有財産制度の否認を目的とし、組織を作ったり、加入したりすること <罰則> ・10年以下の懲役 or 禁錮(未遂の場合も含む) </td> </tr> </tbody> </table>	名称と時期	(普通選挙法)(1925.5)	(治安維持法)(1925.4)	おもな内容	・(10 納税資格)の撤廃 ・25歳以上の(11 男性)に選挙権 →朝鮮・台湾出身者にも選挙権(内地在住のみ) ・女性の選挙権はなし	<禁止事項> ・団体の変革と私有財産制度の否認を目的とし、組織を作ったり、加入したりすること <罰則> ・10年以下の懲役 or 禁錮(未遂の場合も含む)	MQ: 今回取り扱った以下のキーワードを参考に複数の視点を組み合わせて考えよう < 社会運動の高まり・普通選挙法・治安維持法・関東大震災での大衆の様子 > ◎()という問題点 理由・根拠→										
名称と時期	(普通選挙法)(1925.5)	(治安維持法)(1925.4)															
おもな内容	・(10 納税資格)の撤廃 ・25歳以上の(11 男性)に選挙権 →朝鮮・台湾出身者にも選挙権(内地在住のみ) ・女性の選挙権はなし	<禁止事項> ・団体の変革と私有財産制度の否認を目的とし、組織を作ったり、加入したりすること <罰則> ・10年以下の懲役 or 禁錮(未遂の場合も含む)															
【資料A】 若槻礼次郎内相の演説(1925.2) …共産主義者の運動が、ロシアやドイツの革命の影響で激しくなっている。…日本とソ連の国交が回復すると、社会運動が激化し、国内の治安を乱す行動が増加するだろう。今の法律では、これらの危険な行動は取り締まれない場合がある上、罰則が軽すぎる。 ※日本とソ連の国交…日本は1925年に日ソ基本条約が締結され、ソ連との国交を樹立した。 Pt①:政府はなぜ治安維持法を制定したのだろうか?(資料 A)	【資料B】 東京朝日新聞(1925.1.17) 治安維持法の目的は、おそらく団体 ¹⁾ を変え、国家の秩序を乱したり、社会組織を破壊したりするような過激運動を取り締まることにあるであろう。…しかし取り締まりの実際は、人権の蹂躪 ²⁾ や言論を抑制する結果となり、国民の思想生活は警察による取り締まりの対象となり、集会・結社の自由は無くなってしまふのである。 ※1 団体(こくたい)…天皇を中心とする当時の日本の国家体制のこと ※2 蹂躪(じゅうりん)…踏みにじること Pt②:治安維持法の危険性はどのような点にあるか?(資料 B)																
→SQ1:	第3期 Q の仮説:(なぜ20世紀前半の世界において大衆の影響力が拡大したのか?) (組 番 名 前) 今テーマの理解度(◎・○・△) (/)まで																

図2 ワークシート(歴史総合)

このワークシートは、総合教育センターウェブページにてダウンロードできます。

歴史総合-第3期⑥～なぜ20世紀前半の世界において大衆の影響力が拡大したのか?～

○普通選挙と日本の“大衆”【資料編】 組 番 名 前

MQ:普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか?

<SQ2 関連資料>

資料 C: 関東大震災

1923年9月1日午前11時58分、相模湾沖を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生。死者・行方不明者は約10万人にのぼり、社会不安が高まる中、政府は東京・神奈川・埼玉・千葉に戒厳令[※]を出した。被災地では「朝鮮人が暴動を起こした」などのデマが飛び交い、デマを信じた住民は自警団を結成し、軍隊や警察とともにおびただしい数の朝鮮人・中国人を殺害した。また軍や警察は混乱に乗じて社会主義者を拘束・殺害する事件を起こした。誤認され殺された日本人や、障害者の殺害も多数発生したという。



※戒厳令…戦時または異常な事態が国内に発生したとき、立法権・司法権・行政権の全部または一部を軍の支配下にうつすこと

ヒント:なぜ災害時にデマが出回りやすくなるのでしょうか?

資料 D: 報知新聞(1923.10.28)より

九月一日夕方、曙町交番巡査が自警団に来て「各町で朝鮮人が殺人放火しているから気をつけろ」と二度まで通知に来た…警視庁の自動車は「朝鮮人が各所において勢いついているから各自注意せよ」との宣伝ビラを撒布した…

→こうしたデマがどこから、なぜ発生したのかを厳密に特定することは出来ていない。しかし震災当初、政府や警察はデマを否定せず、むしろ広めていたという。

ヒント:なぜ朝鮮人のデマが流れ、広められたのか?

資料 E: 藤野裕子『民衆暴力―一探・暴動・虐殺の日本近代』より

…そのほかの要素として、日本人の労働者層には、朝鮮人に仕事を奪われているという感覚があったことも指摘されている。…朝鮮人虐殺の裁判において被告となったのは、…土木労働者や日雇い雑業層、工場労働者といった労働者層が多かった。彼らにとって安価で雇われる朝鮮人労働者は、自分たちの雇用を脅かす存在であった。

ヒント①:なぜ朝鮮人労働者が日本で生活していたのか?
ヒント②:虐殺に手を染めたのはどのような人々か?

資料 F: 「1923年9月2日、野木松治の体験」

(日比谷公園から200mほど離れた場所)で物陰からいきなり鉢巻をした3人の男達が現れて、私の両脇へ竹槍を突き付けました。私は驚いて、ただふるえていると、1人の男が私に向かって、「お前は日本人か、朝鮮人か。」と強い口調で言いました。「日本人です。」私は恐ろしさに声がふるえてうまくしゃべれませんでした。「本当にお前は日本人か!」「十円五十銭と言ってみろ!」男達は私を取り囲み詰問してきました。脇腹にはビタリの竹槍です。「十円五十銭。日本人です。私は日本人です。」

図3 ワークシート【資料編】(歴史総合)

このワークシートは、総合教育センターウェブページにてダウンロードできます。

エ 生徒の考察について

「主体的に学習に取り組む態度」の評価として、「ウ 『指導と評価の一体化』について」に記載の観点によって、A・B・Cの評価を付けた。以下、生徒の記述例を挙げる。

(ア) A評価とした生徒の記述例(原文ママ)

(大衆、政府、すべての人が自分勝手)という問題点
理由・根拠→大衆の問題点は社会運動での高まりで大衆が過激な行動を起こしたり、関東大震災での大衆はありもしない情報で朝鮮人を殺したことであり、過激な性格で信じやすいことが問題である。政府の問題点は治安維持法で社会主義の人々を取り締まるといつつ他の国民の思想も取り締まってしまう言論の自由もうばってしまうことになり、コントロールできる範囲で政治をしようとしたことと、関東大震災での混乱に乗じて社会主義者を殺したという問題点、10年後での起こりそのような問題点は、治安維持法により政府の思う世の中になりやすくなる。そのことに対し、大衆が怒り政府に対し攻撃し、負の連鎖になると思う。

この生徒は、社会運動の高まり、治安維持法、関東大震災での大衆の様子を組み合わせ考察をしている。また、それぞれの要素から考察できることを列挙した上で、「大衆、政府、すべての人が自分勝手」ということを指摘している。さらに、理由・根拠には、「将来的に政府に対しどのような問題が起きていくか」について言及がなされている。複数の視点をういた上で新たな問題点を導き出していると見取ることができるため、A評価とした。

(イ) B評価とした生徒の記述例(原文ママ)

(普通選挙法と治安維持法が重なることによる矛盾) という問題点
理由・根拠→国民に政治参加の自由を与える普通選挙ができたのに、同時にその自由な意見や考えを制限する治安維持法ができたことで、自由に意見を言えない選挙になり、民主主義の進展と取り締まりなどが同時に起こる矛盾ができた。

この生徒は、「普通選挙法と治安維持法が重なることによる矛盾」への指摘がなされている。この矛盾がどのような問題点を生み出すかという指摘まで踏み込むことができればよかったが、記されている内容からは新たな問題点を導き出すことはできていないと見取り、B評価とした。

(ウ) C評価とした生徒の記述例(原文ママ)

(日本人以外に対する偏見と差別の激化) という問題点
理由・根拠→日本の普通選挙が導入された時期に、工業化が進展していった一方で、多くの労働者は貧困に苦しんでいた。普通選挙が導入される前には女性差別などの不平等さをなくすための動きが見られるようになってきていた。普通選挙導入後は納税資格が撤廃されて、25歳以上の男性に選挙権がわたった。また、同じ年には、治安維持法が制定されたことで、国内の過激な運動を取り締まるはずだったが、実際は自由がなくなってしまった。社会運動が高まる中で政府はできる範囲でコントロールしようとしたが、できずに終わってしまった。

この生徒は、「日本人以外に対する偏見と差別の激化」という問題点を挙げている。この問題点は、関東大震災の学習の際に取り上げられた内容である。「関東大震災での大衆の様子」という一つの視点にとどまっているため、C評価とした。また、理由・根拠も問題点を補足しているとは言い難い。この生徒に対しては、ワークシートの返却後に「他の視点と組み合わせて考えること」について、A評価の生徒の記述を例示して理解を促した。さらに、次回以降の授業において、MQに対して解答する上での注意点を改めて確認してから取り組ませるなどのサポートを行った。

オ 成果と課題について

公開研究授業後の研究協議では、研究のねらいである「主題や問いの設定の工夫」と「学習評価の改善」の成果と課題について、主に話し合いをした。

成果の一つ目は、「問いの設定の工夫」についてである。思考の流れを意識しやすい問いをMQとSQとして段階的に設けることで、生徒にスムーズに思考させることができた。段階的な問いの設定により、ワークシートによる内容理解の学習と資料を読み込みながら考察を進める学習とが明確に位置付けられた。学習展開としても、個人→グループ→全体共有という流れにより、生徒の多面的・多角的な視点を引き出すことができた。二つ目は、単元全体における本時のMQの位置付けがなされていることが挙げられた。「MQに対して解答する→フィードバックを受ける→次回のMQに対して解答する」という一連の学習を積み重ねることにより、生徒の「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力・人間性」の育成が見て取れた。これは、研究テーマの「『指導と評価の一体化』の実現に向けた学習評価の充実」という視点から、大きな成果であると感じられた。

課題の一つ目も、「問いの設定の工夫」についてである。本時のMQは、「普通選挙導入が実現された時期の日本の大衆にはどのような問題点があったのか?」とした。しかし、「大衆の問題点」とするのではなく、「大衆化の問題点」「大衆社会の問題点」とした方が、当時の社会を捉える上では適切ではないかと、指摘をいただいた。また、「大衆化の問題点」と構造的・概念的な表現を用いることで、評価基準も作成しやすくなり、より綿密な学習評価につながるという意見も出た。二つ目は、「主題と学習内容との関係」についてである。「大衆の問題点」を主題とするにあたって、関東大震災という学習内容が適切かどうかは再検討の余地があるといった意見が挙げられた。学習指導要領には、大衆社会の形成と社会運動の広がりについて「大衆の政治参加、女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解すること」とある。主題をより深く考察するための学習内容を設定することの難しさを感じた。

成果と課題を踏まえた今後の展望として、「問いの設定の工夫」の重要性を挙げる。研究を通して、「問いの設定の工夫で得られる効果(図4)」をまとめた。「問いの設定の工夫で得られる効果」は、研究テーマの「『指導と評価の一体化』の実現に向けた学習評価の充実」につながると考える。今後も、より一層「問いの設定の工夫」について改善を図っていきたい。

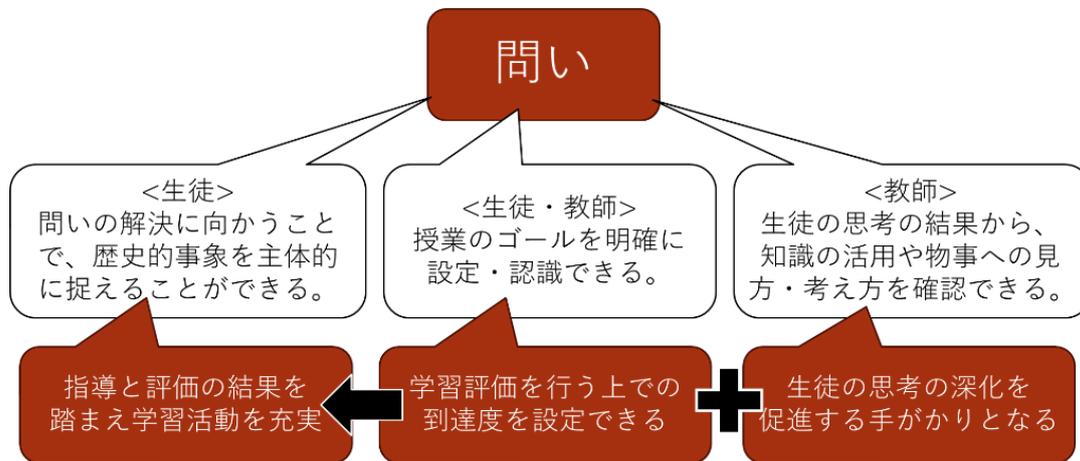


図4 問いの設定の工夫で得られる効果